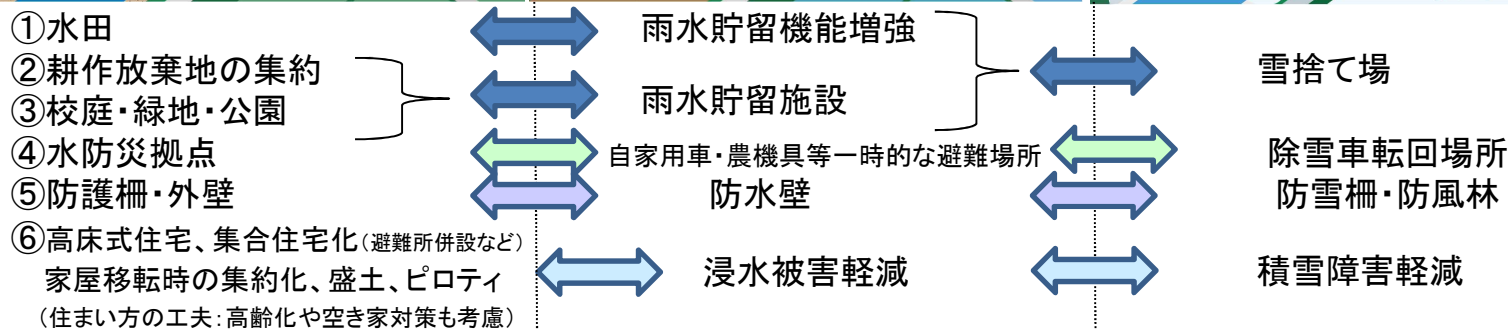
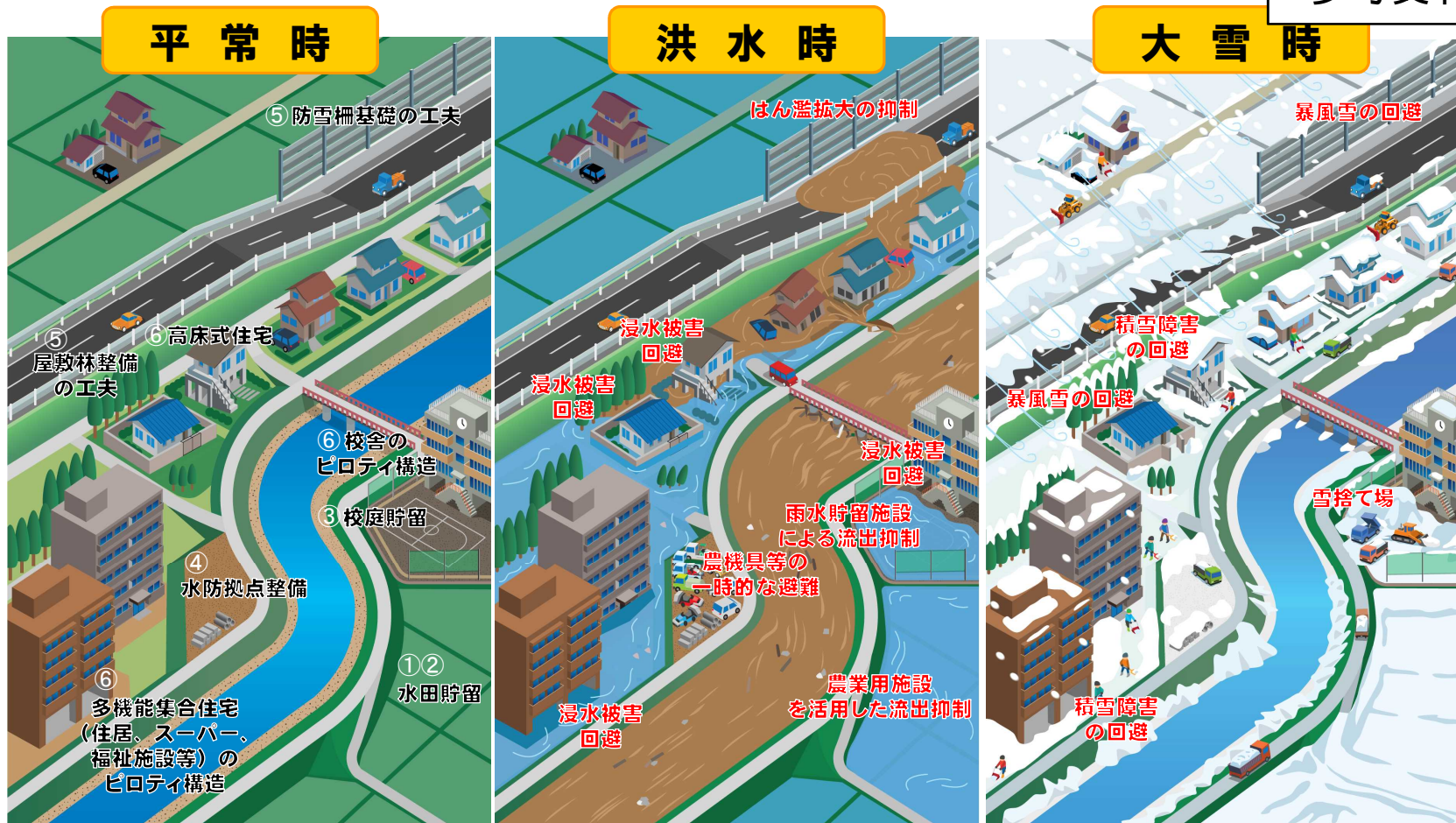


【農業や雪国等の東北地方の特性を考えた流域治水プロジェクトのメニュー(案)】

(多機能インフラを念頭に～平常時・洪水時・大雪時～)

参考資料-1



多機能のイメージ

他水系の流域治水協議会での議論例

- 地区ごとの特徴・被害形態が様々なことを踏まえ、まちづくりとも連携した取り組みをパッケージ的【ミニ流域治水】に検討。
- 令和元年東日本台風で大きな被害が生じた郡山市や須賀川市等で議論を実施。

■阿武隈川上流

郡山ブロック 流域治水概要

【実施主体:国、県、市、大学、企業】

阿武隈川本川や支川の改修を進めるとともに、市街地の貯留施設整備や災害リスクを考慮したまちづくりにより、郡山ブロックにおける浸水被害の軽減を図る。



他水系の流域治水協議会での議論例

- 流域治水の取り組みを推進していくにあたり、県、市町村等にアンケートを取り、各地区における具体的な課題を抽出・整理。
- 課題を解決するため、必要な取り組みを検討し、協議会で議論を実施。

■鳴瀬川水系 吉田川



流域治水の推進（広報の取組）

- 流域治水の取り組みを着実に進めていくためには、地域の協力が不可欠。
- 関係者全員で流域治水に取り組む意識を持続させることが必要と考え、新聞広告や流域治水の取組に特化した情報連携誌を新たに発行。情報連携誌は県、自治体、報道機関等に対しメールによるニュース配信にて実施。

情報連携紙の発行

令和3年3月23日発行

米代川水系流域治水ニュース(創刊号)

発行者：国土交通省 東北地方整備局 能代河川国道事務所
〒016-0121 能代市舘測字一本柳97-1 TEL. 0185-70-1001 (代)
http://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/ E-mail thr-noshiro01@mlit.go.jp

～第3回米代川圏域流域治水協議会を開催～
「米代川水系流域治水プロジェクト」について承認!

令和3年3月12日に、WE B会議にて「第3回米代川圏域流域治水協議会」を開催しました。本協議会は、令和元年米代川台風災害をはじめとした近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、米代川流域において、あらゆる関係者が協働して推進していくことになりハード・ソフト対策に取り組む「流域治水プロジェクト」を推進するため、令和2年9月18日に設置し、検討を進めてきました。

これまで検討を重ねてきた「米代川水系流域治水プロジェクト（第1）」について、本協議会で承認いただきました。

今後、調査、策定しをしながら、関係機関が一体となって、プロジェクトに取り組んでいくこととなります。

○米代川水系流域治水プロジェクト

■犯さざるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河津堤防、堤防整備等
- ・事前防災の策定（関係者：国、自治体、岩手県、東北電力等、三菱マテリアル（株）、土地改良区など）
- ・農業行為に対する雨水貯留・浸透施設の設置指導
- ・雨水貯留浸透施設整備（県民向け）
- ・水田貯留
- ・砂防堤等の整備
- ・森林整備・造山対策

河津堤防
水田貯留のイメージ

■被害対象を減少させるための対策

- ・防災拠点等の整備
- ・立地適正化計画の策定・見直し

防災拠点の整備イメージ
（宮城県大崎市の例）

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・危険管理型水位計、映像型河川監視カメラの設置
- ・教育機関との連携による出発調査・防災教育の拡充
- ・調査等によるマイ・タイムライン普及促進
- ・被災者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・水害リスク空白域の解消
- ・遊休地等の活用

マイ・タイムライン 作成講習会

秋田県北の発展と共にいのちとくらしを守る地域が一体となった治水対策を推進

○第3回協議会 委員

能代市長、北秋田市長、大館市長（建設部長）、鹿角市長、小坂町長、藤巻町長
秋田県 総務部危機管理課長、秋田県 森林水産部長（農地整備課主幹（兼）課長）
秋田県 建設部長（河川砂防課長）
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 東北北海道課長
東北産業振興 西奥土地改良調査管理事務局長、東北森林管理局 米代森林管理課長
気象庁 秋田地方気象台長（次長）、能代河川国道事務所長

○第3回協議会の開催状況（WE B会議）

○第3回協議会での主なご意見

- ・国、県のハード対策により治水効果は現れているが、数々自身でもできることはしっかりとやっけていく。現在、立地適正化計画を策定中であり、こういう計画をしっかり準備することで水害リスクを少しでも減らすなどソフト対策を積極的に進め、関係機関が一体となってプロジェクトを推進していきたい。
- ・防災拠点の整備は「目に見える安心」であり、市民の目に見える形で安心（防災拠点）ができていくということが非常にありがたい。大変心強く期待している。
- ・米代川は農業用水や上水道の水源となっていることを広く市民に伝え、これまで以上に整備を願っていたらどうかと、防災・治水についても関心を持っていただけるような取組が必要だと感じている。
- ・河川管理者だけでなく、関係機関のハード・ソフトを含めた総合的な治水対策がプロジェクトとしてまとめられている。中でも取組を防ぐための堤防整備などハード対策が一番重要と考え、プロジェクトに基づくハード整備を積極的に推進していただきたい。
- ・今後はいつどこでも大雨等があるということを前に感じながら取り組んで行く。想定最大規模に合わせたハードマップの作成と全戸配布及び自主防災組織の強化に努めたい。
- ・流域の関連する関係機関が一丸にこのプロジェクトに参画していただきたい。皆さんで対策や取り組みをやっていくというこのプロジェクトができたことに感謝を申し上げます。

米代川圏域流域治水協議会の議事内容については、下記のURL（QRコード）より確認できます。
http://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/kasen/ryuukichisui/ryuukichisui.htm

令和3年6月1日発行

米代川水系流域治水ニュース 第2号

発行者：国土交通省 東北地方整備局 能代河川国道事務所
〒016-0121 能代市舘測字一本柳97-1 TEL. 0185-70-1001 (代)
http://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/ E-mail thr-noshiro01@mlit.go.jp

犯さざるだけ防ぐ・減らすための対策

大館市「雨水貯留浸透施設（調整池）」が完成しました!

整備が完了したものをタイムリーに地域にお知らせ

- ・大館市では駅周辺産業団地の造成に伴い、雨水流出抑制の取組として、既存緑地を活用した調整池を整備し、令和3年3月に完成しました。
- ・集水面積29.4㍑内の排水対策として、道路の嵩上げ工事、排水路の整備、面積約2.2㍑の調整池を整備し、大雨時に、一時的に調整池に水を貯めて徐々に水を流すことで、下流の乱川への負担軽減や氾濫抑制に努めています。
- ・平時は緑地として、ランドゴルフのコースが整備され、市民に利用されています。

※米代川水系流域治水プロジェクトについては、下記のURL（QRコード）より確認できます。
http://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/kasen/ryuukichisui/ryuukichisui.htm

流域治水の推進（広報の取組）

「阿武隈川上流 流域治水シンポジウム」を開催 ～水害から命を守るために～

1. 概要

近年激甚化・頻発化が懸念されている水害に備え、流域全体のあらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）が協働して、水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進する必要がある。

令和元年東日本台風で大きな被害が生じた阿武隈川において、流域関係者の水害への関心を更に高め、流域治水という新しい治水の考え方について理解を深めていただくため、シンポジウム（基調講演・パネルディスカッション）を開催。

2. 日時／聴講人数

- 日 時：令和3年6月20日(日)14:00-16:00
- 場 所：福島県福島市 こむこむ館
- 出演者：市長を含む10名（内2名Web参加）

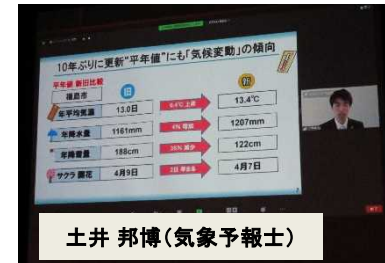
3. 講演内容/講演者

- ・基調講演① 講演者：風間 聡(東北大学 教授)
『気候変動下における流域治水の必要性について』
- ・基調講演② 講演者：土井 邦裕(気象予報士)
『気候変動を気候変動下における世界』
- ・パネルディスカッション
『阿武隈川流域の推進に向けて』
- コーディネーター：長林 久夫(日本大学 名誉教授)
- スピーカー：
 - ・木幡 浩(福島市長)・橋本 克也(須賀川市長)
 - ・風間 聡(東北大学 教授)・川越 清樹(福島大学 教授)
 - ・小川 則雄(郡山中央工業団地会 会長)
 - ・浅沼 秀俊(福島県建設業協会 副会長)
 - ・土井 邦裕(気象予報士)
 - ・佐藤 健司(東京海上日動火災保険(株) 次長)
 - ・福島 陽介(福島河川国道事務所 事務所長)

基調講演の様子



風間 聡(教授)



土井 邦博(気象予報士)

パネル展示の状況



パネルディスカッションの様子



福島陽介
(事務所長)

木幡 浩
(福島市長)



橋本 克也(須賀川市長)



長林 久夫(日本大学 名誉教授)



川越 清樹
(福島大学 教授)

小川 則雄
(郡山中央工業
団地会長)



佐藤 健司
(東京海上日動火災保険(株))

流域治水の推進 (広報の取組)



YOUTUBE ライブ配信します!
https://youtube.com/channel/UCp2TjgH_L2Z5Mk4Q9y9BQ

吉田川 流域治水 シンポジウム

募集
 先着 **150名** (参加無料)
 《要事前申込》※新型コロナウイルス感染症拡大の恐れがあるため50%に制限しています。

開催日時 **8月28日(土)**
 令和3年 開場 13:00 開演 13:30~
 会場 〒989-4102 宮城県大崎市鹿嶋市木崎町字鹿島335番地1
 TEL.0229-56-6311
鎌田記念ホール サブアリーナ
 (多目的ホール)

プログラム

- 基調講演 「変化を乗り越え、誇りある流域づくり」
 講師 小池 俊雄氏 (社会資本整備推進委員会(財)科長 分科長兼
 国土研究開発法人土木研究所 水災害リスクマネジメント国際センター センター長)
- 情報提供 「吉田川の水害と治水の取り組み」
 講師 石田 和也 (国土交通省 北上川下流河川事務所)
- パネルディスカッション
 「流域治水で地域が発展していくために」
 コーディネーター 塚原 浩一氏 (公益財団法人 リバーフロント研究所 代表理事)
 パネリスト 田中 仁氏 (東北大学大学院工学研究科 教授)
 佐藤 翔輔氏 (東北大学 災害科学国際研究所 准教授)
 千葉 栄氏 (鹿田川河川事務所 課長)
 三浦 たつ子氏 (大崎市農商会 会長)
 コメンテーター 小池 俊雄氏 (社会資本整備推進委員会(財)科長 分科長兼)



お問い合わせ
大崎市 都市計画課 (事務局)
 〒989-6188 宮城県大崎市古川七日町1番1号
 電話: 0229-23-8069 FAX: 0229-22-9454
 Eメール: toshik@city.osaki.miyagi.jp

後援 一般社団法人東北地域づくり協会

主催 吉田川流域治水シンポジウム実行委員会
 ●鹿嶋川等流域治水協議会 ●江合・鹿嶋・吉田川水系改善促進期成同盟会
 ●大崎市水害に強いまちづくり共同研究会(大崎市一般社団法人東北地域づくり協会)
 ●国土交通省 北上川下流河川事務所

吉田川 流域治水 シンポジウム

開催趣旨 吉田川流域では、これまでたびたび水害に襲われており、様々な治水対策に取組んできました。近年でも、令和元年台風19号による大規模な氾濫被害を契機に、国、県、市町が連携して氾濫被害の最小化に向けて吉田川・新たな「水害に強いまちづくり」プロジェクトに取り組んでいるところです。
 一方、気候変動の影響や社会状況の変化を踏まえ、水害リスクはますます増大していくものと考えられます。増大する水害リスクから地域を守っていくために、これまでの取組に加え、河川流域のあらゆる関係者が協働して、河川だけでなく、住民が暮らす流域の土地や建物、避難体制等に工夫をこらして水害対策を実施する「流域治水」を進めていくことが重要になります。
 そこで、吉田川流域を水害から守り、地域を発展させるために必要な流域治水について、住民や専門家の皆様と議論する「吉田川流域治水シンポジウム」を開催いたします。

吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」がスタート!! 地域を「みず」から守る。

TIME	プログラム	プロフィール
13:30	開会 ビデオメッセージ ◆ 国土交通大臣 赤羽 一嘉	
13:35	挨拶 ◆ 石田 和也 (国土交通省 北上川下流河川事務所 実行委員長)	
13:40	第1部 基調講演 「変化を乗り越え、誇りある流域づくり」 講師 小池 俊雄氏 (社会資本整備推進委員会(財)科長 分科長兼 国土研究開発法人土木研究所 水災害リスクマネジメント国際センター センター長)	 講師 小池 俊雄氏 ●社会資本整備推進委員会(財)科長 分科長兼 ●国土研究開発法人土木研究所 水災害リスクマネジメント国際センター センター長 1985年に東北大学大学院工学系研究科専攻修士課程を修了。その後、長崎技術科学大学で工学博士取得。東北大学で工学系研究科准教授、現在は国土研究開発法人土木研究所 水災害リスクマネジメント国際センター長、社会資本整備推進委員会(財)科長兼分科長、国土研究開発協会などを兼任。
14:40	休憩	
14:55	情報提供 「吉田川の水害と治水の取り組み」 講師 石田 和也 (国土交通省 北上川下流河川事務所)	
15:10	第2部 パネルディスカッション 「流域治水で地域が発展していくために」 コーディネーター 塚原 浩一氏 (公益財団法人 リバーフロント研究所 代表理事) パネリスト 田中 仁氏 (東北大学大学院工学研究科 教授) 佐藤 翔輔氏 (東北大学 災害科学国際研究所 准教授) 千葉 栄氏 (鹿田川河川事務所 課長) 三浦 たつ子氏 (大崎市農商会 会長) コメンテーター 小池 俊雄氏 (社会資本整備推進委員会(財)科長 分科長兼)	 コーディネーター 塚原 浩一氏 ●公益財団法人 リバーフロント研究所 代表理事 1985年東北大学大学院を卒業後、建設省に入省。東北地方整備局を以て中心として、河川地方整備局、中国地方整備局、本管轄事務局長、2015年に国土交通省水害対策 国土防災総合推進部 部長 (当時) リバーフロント研究所 代表理事として退官。
16:40	閉会挨拶 ◆ 伊藤 康志 (国土交通省 吉田川水系治水推進期成同盟会 会長(大崎市))	

 パネリスト 田中 仁氏 ●東北大学大学院 工学研究科 教授 ●2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団 団長 1984年東北大学大学院工学研究科専攻修士課程を修了。その後、早稲田大学博士、アジア工科大学(タイ) (バンコク) 専攻工学系助教、リバーフロント工科大学専攻工学系助教、長崎技術科学大学専攻工学系助教、東北大学大学院工学系研究科 工学系准教授として退官。	 パネリスト 佐藤 翔輔氏 ●東北大学 災害科学国際研究所 准教授 2011年東北大学大学院工学系研究科専攻修士課程を修了。同年、東北大学大学院工学系研究科 助教に就任。2017年11月より現職の東北大学災害科学国際研究所 准教授に就任。
 パネリスト 千葉 栄氏 ●鹿田川河川事務所 課長 平成16年9月に鹿田川河川事務所 課長に就任。平成20年9月から本職兼務に就任し、翌年に定年。平成22年12月退任し吉田川流域治水推進委員会 委員に就任。 国土交通省東北地方整備局 鹿田川河川事務所 課長を以て退職。退職後は地域づくりを目的としたボランティア活動に従事。	 パネリスト 三浦 たつ子氏 ●大崎市農商会 会長 鹿嶋市、鹿嶋市で専業主婦を営む。鹿嶋市7チームと志田 高専を創設されている。 鹿嶋市7チームは令和元年10月現在まで継続。

事前参加申込書 ★必要事項をご記入の上、①郵便(はがき・封書)、②電話、③FAX、④Eメールにてお申し込みください。

氏名	所属
住所	連絡先 TEL

《申込先》 ①郵便先 〒989-6188 宮城県大崎市古川七日町1番1号 | 大崎市都市計画課 宛
 ②TEL.0229-23-8069 ③FAX.0229-22-9454 ④Eメール toshik@city.osaki.miyagi.jp 申込締切/8月20日(金)

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となっています。